

令和元年6月25日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H05155

研究課題名(和文) 北東ユーラシア諸言語の語形成に関する地域類型的研究

研究課題名(英文) A regional typological study of word formation in Northeast Eurasian languages

研究代表者

呉人 徳司 (Kurebito, Tokusu)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：40302898

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,600,000円

研究成果の概要(和文)：4年間の研究において、メンバーの三人が現地調査を通じて一次データを多く収集し、東北ユーラシア諸言語の語形成に関する類型的比較研究を実施した。そして研究の成果を国内外の学会で発表したほか、『北方言語研究』、"Asian and African Languages and Linguistics", "Linguistic Typology of the North"などの雑誌に多くの論文を投稿し、日本語と英語で刊行することができた。また、言語の基礎資料になり得る民話資料も多く収集し、数冊の本を出版した。この4年間の研究活動は研究だけでなく、先住民言語の記録・保存にも大きく貢献することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ロシアのシベリア地域と中国の北東地域には話者数が少なく、消滅の危機に瀕している言語が数多く存在する。この四年間はメンバーの三人がロシア、中国、モンゴル国へ何度も行き、緻密な現地調査を重ねてきた。そして系統が異なる東ユーラシアの諸言語の語形成に着目し、類型的比較研究を進めてきた。その結果、数多くの研究成果を上げ、言語学研究に貢献することができた。また、民話資料を大量に収集し、数冊の本として出版し、先住民言語文化の記録・保存に貢献するだけでなく、それを世界に向けて発信することができた。

研究成果の概要(英文)： In a four-year study, we went to each specialized language distribution area, collected a lot of primary data through fieldwork, conducted typographical comparative studies on word formation in East Eurasian languages, and aimed at it was possible to reach. The research results were presented at many academic conferences in Japan and overseas, and were written as academic papers, and were published in Japanese and English in magazines such as "Northern Language Studies", "Asian and African Languages and Linguistics" and "Linguistic Typology of the North". In addition, we collected a large amount of folklore materials that could be basic materials for languages, and were able to publish them as several books. With many of the languages of Northeastern Eurasia now in endangered. So our research over the past four years has become very valuable.

研究分野：チュクチ語、モンゴル諸語

キーワード：北東ユーラシアの諸言語 語形成 地域類型的研究 チュクチ語 モンゴル諸語 ツングース諸語 チュルク諸語

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

北東ユーラシア地域には、極めて多数の言語が密集して分布しているが、これらの言語は古アジア諸語とアルタイ諸語に大別される。古アジア諸語とは、系統的にも類型的にも異質な言語群に対する便宜的な名称である。古アジア諸語には、高度な複統合性を持ち抱合現象の見られるチュクチ語や、焦点接辞などの類型的に興味深い接辞を有するユカギール語などが含まれる。アルタイ諸語には、モンゴル語族、ツングース語族、チュルク語族が含まれる。これらの諸言語では、接辞法と重複法が発達している。北東ユーラシアの地域の諸言語は旧ソ連時代には、主としてロシア人研究者による研究が進められてきた。彼らによる研究は現在でも記述的な価値を有するものではあるが、言語の系統関係にとられ過ぎた点のあることは明らかである。一方でアメリカの言語学者 R. アウステルリッツがこれらの諸言語の系統関係を超え、広く類型的な関心を寄せていたのである。彼はこの地域の言語の「膠着性」を諸語族の故地と関連づけ、膠着性が同地域における新しい発展であると推定した。

ソ連邦の崩壊後、ロシア人研究者たちの研究活動は縮小の一途を辿った。同時に日本の研究者による北東ユーラシア諸言語の記述研究が飛躍的に発展した。この背景には冷戦終結により、かつては政治的な理由で閉ざされていたロシアのシベリア地域および中国の東北地域に、比較的容易にアクセスすることが可能になったことがある。日本の若手研究者たちも次々と現地調査に赴き、同地域のほとんど全ての少数民族言語が日本の研究者たちにより掘り起こされ記述されてきた。研究代表者の呉人徳司及び研究分担者の風間伸次郎は、これまで25年以上に渡りロシア・中国での現地調査を牽引してきたパイオニア世代である。研究分担者の江畑冬生も、15年の現地調査の経験を有しており後に続いている。

日本発信の研究の蓄積は、単に個々の言語の記述の段階に留まらず、諸言語間の比較・対照研究の進展を呼び、ひいては世界の諸言語を対象とする言語類型論にも少なからず貢献してきた。例えば、代表者の呉人による科学研究費・基盤研究(B)「複統合性をめぐる北東シベリア・北アメリカ先住民言語の比較研究」(平成16-19年度、課題番号16320050)、「北東アジア諸言語の複統合性をめぐる類型的・史的比較研究」(平成21-24年度、課題番号21421022)では、名詞抱合はチュクチ・カムチャツカ語族とアメリカインディアン諸語観察されること、一方で語彙的接辞(具体概念を表す接辞)はチュクチ・カムチャツカ語族だけではなくツングース諸語にも見られること等の事実を明らかにしてきた。

北東ユーラシア地域の諸言語の大半が今、消滅の危機に瀕している。本研究の中心をなす現地調査に基づく研究は、近い将来にはおそらく不可能になってしまうという社会的背景もある。従って、本研究は極めて緊急性の高いものである。以上が本研究の学術的背景である。

2. 研究の目的

本研究は言語的に極めて突出した多様性を示す北東ユーラシア地域において、詳細な現地調査に基づいた語形成法に関する類型的研究を行う。言語領域(linguistic area)としての北東ユーラシア地域は、これまでは単に系統が異なる諸言語の密集地域として捉えられてきた。これに対し、本研究では同地域における語形成法に着目し、次の2つの観点から形態法の精緻さと語構造の多様性を明らかにする。[1] 語形成の手法：接辞法(接頭辞・接周辞・接尾辞)、重複法、音交替、転成、補充法。[2] 語形成プロセスのタイプ：語幹合成法(複合・抱合)、語彙的接辞(複統合性)、派生、屈折、接語法。

これらすべてのタイプが観察される同地域での現地調査により一次データを収集し、類型的な対照研究を進め、広く一般言語学における語形成理論への貢献を目指すことが本研究の目的である。

3. 研究の方法

本研究では、北東ユーラシア諸言語の語形成に関し、地域類型論的観点から相互に比較対照することを目的とするが、これを達成するために次のような2段階の研究が行われた。

研究代表者と研究分担者がロシア、中国、モンゴルに行き、それぞれの専門とする言語が話されている地域に入り、緻密な地調査により一次データの収集・分析を行なった。

それぞれが得た知見を持ち合い、議論を重ねることにより、北東ユーラシア諸言語の語形成に関わるさまざまな手法と語形成のプロセスのタイプを比較し、形態法の精緻さと語構造の多様性を明らかにした。

4. 研究成果

本研究はロシア、中国、モンゴル国など北東ユーラシア地域に分布するアルタイ諸言語と古アジア諸語の一つであるチュクチ語を対象とし、語形成に焦点をあて、主に現地調査で得られ

た一次資料に基づき、これらの言語の形態的手法と形態のプロセスを比較し、地域的類似性を明らかにする目的であった。四年間の研究期間において、研究代表者と分担者二人が、それぞれの研究対象とする言語に対する緻密な現地調査を通じて一次データを大量に収集し、東北ユーラシア諸言語の語形成に関する類型的比較研究を実施した。そして研究の成果を国内外の学会で毎年発表したほか、日本語と英語で数多くの論文を執筆し、『北方言語研究』、"Asian and African Languages and Linguistics"、"Linguistic Typology of the North"などの雑誌に投稿し、大きな研究成果を上げることができた。また、言語の基礎資料になり得る民話資料も多く収集し、数冊の本として出版した。この4年間の研究活動は研究だけでなく、先住民言語の記録・保存にも大きく貢献することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 22 件)

- 呉人徳司「チュクチ語における使役について 強制度合いの差異と形態統合的ふるまいの相違性」、『北方言語研究』第 9 号、1 - 12、2019 年(査読付き)
- KAZAMA Shinjiro “On the Internally Headed Relative Clause in Altaic-type Languages”, *Asian and African languages and linguistics*, Vol. 13. 7 - 46、2019 年(査読付き)
- 風間伸次郎「アルタイ諸言語の場所表現における名詞的性格について」、『北方言語研究』第 9 号、41 - 65 (査読付き) 2019 年
- EBATA Fuyuki “Regularity and obligatoriness in Sakha (Yakut): A contrastive analysis with Tyvan”, *Asian and African languages and linguistics*, Vol. 13.、67 - 80、2019 年(査読付き)
- 江畑冬生「トゥバ語の証拠性を表すとされる接辞-dir の機能：話し手・聞き手の認識からの説明」、『北方言語研究』第 9 号、31 - 39、2019 年(査読付き)
- 江畑冬生「サハ語の数量詞句」、『言語の類型的特徴対照研究会論集』、43 - 52、2019 年(査読無し)
- 呉人徳司「ダグルゴチチハル方言における現地調査報告」、『現代中国における言語政策と言語継承』第 4 巻、76 - 81、2019 年(査読無し)
- 風間伸次郎「アルタイ諸言語と朝鮮語、日本語におけるいわゆる「再帰代名詞」の対照研究」、『北方言語研究』第 8 巻、1 - 36、2018 年(査読付き)
- KUREBITO Tokusu “Diversity of the passive voice in the Mongolic languages”, *Linguistic Typology of the North*, Vol.4.、1 - 11、2017 年(査読無し)
- KAZAMA Shinjiro ‘Emotional predicates in “Altaic-type” languages’, *Linguistic Typology of the North*, Vol. 4, 131 - 153. 2017 年(査読無し)
- KAZAMA Shinjiro ‘On the linguistic type of Japanese: Toward an understanding of “Altaic-type” languages’. *Linguistic Typology of the North*. Vol.4, 155 - 172、2017 年(査読無し)
- KAZAMA Shinjiro ‘The inanimate subject from the perspective of linguistic area and linguistic typology. *Linguistic Typology of the North*. Vol.4.、173 - 202、2017 年(査読無し)
- KUREBITO Tokusu “Chukchi as a polysynthetic language”, *Linguistic Typology of the North*, Vol.3.、59 - 71、2016 年(査読無し)
- EBATA Fufuki ‘The linguistic status of Sakha (Yakut)--A contrastive analysis with Turkic and Tungusic languages--’, *Linguistic Typology of the North*, Vol.3.、2016 年、53 - 66 (査読無し)
- 江畑冬生「サハ語(ヤクート語)の「双数」の解釈 聞き手の数からの分析」、『言語研究』第 151 巻、63 - 74、2017 年(査読付き)
- EBATA Fufuki ‘Studies on Altaic languages in Japan: An overview and two recent studies on Sakha’, *Language, Communication and Culture*, Vol.3. 48 - 65、2017 年(査読付き)
- EBATA Fufuki ‘Quoted imperative statements in Sakha (Yakut) --Between direct and indirect speeches—’, *Linguistic Typology of the North*, Vol.3.、73 - 80、2016 年(査読無し)
- 風間伸次郎「地域的・類型論的観点からみた無生物主語について」、『北方言語研究』第 6 巻、81 - 96、2016 年、(査読付き)
- 江畑冬生「サハ語の再帰接辞・逆使役接辞・受け身接辞」、『北方言語研究』第 6 巻、43 - 52、2016 年(査読付き)
- 呉人徳司「ダグル民族における満洲の影響及び言語使用の実態」、『現代中国における言語政策と言語継承』第 3 巻、119 - 125、2015 年(査読無し)
- ① 呉人徳司「作為一個跨境語言的命運和困境 卫拉特蒙古語的过去和现在」、『跨境語言和社会生活』、221 - 234、2015 年(査読付き)
- ② EBATA Fuyuki ‘Postmodification in Sakha (Yakut) — Its atypical word order and number agreement—’, *Altai Hoppo*、133-143、2015 年(査読付き)

[学会発表](計22件)

KUREBITO Tokusu ‘Diversity of the valency-changing in Chukchi’, International Conference on Uralic, Altaic and Paleoasiatic languages in memory of A.P.Volodin, Russian Academy of Sciences, St. Petersburg, Russia, 2018 年

KUREBITO Tokusu ‘The Current State of the Western Buryat Language’, The 16th Annual Conference of the International Association of Urban Language Studies, 大分大学、2018 年

呉人徳司 ‘Христийн шашны хүмүүсийн найруулан зохиосон нэгэн сурах бичгийн хэл найруулгын тухай’, МОНГОЛ СУДЛАЛЫН ХОЛБООНЫ АЗИЙН ХУРАЛ-2018, International Mongolian Studies Association, 昭和女子大学、2018 年

KUREBITO Tokusu ‘One ethnic group becomes two language groups: Eastern Yugur and Western Yugur’, International Altay Communities-VII, Ulaanbaatar, Mongolia. 2018 年

KUREBITO Tokusu ‘Passive expressions in the Secret History of Mongols and its historical change’, The first International Conference of *the Secret History of Mongol*, Inner Mongolia University, China 2018 年

EBATA Fuyuki ‘The so-called evidential suffix -dir in Tyvan: Explanation from the perspective of the speaker’s and the hearer’s knowledge’, 韓国言語学会 2018 年夏季学術大会、2018 年
江畑冬生「トゥバ語における疑問詞疑問接辞の否定文での用法: egophoricity からの説明」、
日本言語学会 157 回大会、2018 年

EBATA Fuyuki ‘Regularity and obligatoriness in Sakha (Yakut): A contrastive analysis with Tyvan’, International Workshop: Descriptive and Contrastive Analysis on Languages of Northeast Eurasia 2, 2018 年

風間伸次郎「モンゴル語における文法の諸問題」、東京外国語大学 AA 研共同利用・共同研究課題「モンゴル諸語における言語変容 外的要因と内的要因」2018 年度第 2 回研究会、2018 年

KUREBITO Tokusu ‘On the Chukchi traditional word play’, 6th 3E International Conference: Enjoyment, Elderly, Edutainment, Taitung, Taiwan, 2017 年

KUREBITO Tokusu ‘On the importance of Mongolian dialects research’, 5th International Conference: Past and Present of the Mongolic Peoples, Foundation for Culture and Science of Mongolic Peoples, Ulaanbaatar, Mongolia, 2017 年

KUREBITO Tokusu ‘Notes on phonological and morphological characteristics in Eastern Yugur’, ILCAA Joint Research Project “Studies on Mongolic languages in Hexi corridor based on published material, 5th Meeting, Tokyo University of Foreign Studies, 2016 年

KUREBITO Tokusu ‘Notes on Tense in the Mongolic Languages, Time and Language, International conference, The Linguistic Association of Finland, Turku, Finland, 2016 年

KUREBITO Tokusu ‘Some questions of causative and passive of Khorchin dialect in Mongolian’, the 11th International Congress of Mongolists, International Association for Mongol Studies, Ulaanbaatar, Mongolia, 2016 年

KUREBITO Tokusu ‘Diversity of the passive voice in the Mongolic languages’, International Workshop “Descriptive and Contrastive Analysis on Languages of the Northeast Eurasia”, Niigata University, 2016 年

KUREBITO Tokusu ‘On the Chukchi riddle’, 4th 3E International Conference: Enjoyment, Elderly, Edutainment, Dongguk University, Korea 2015

KAZAMA Shinjiro ‘On the functional continuity between conditionals and time clauses’, International Workshop "Descriptive and Contrastive Analysis on Languages of the Northeast Eurasia", Niigata University, 2016 年

EBATA Fuyuki ‘The linguistic status of Sakha (Yakut): A contrastive analysis with Turkic and Tungusic languages’, International Workshop "Descriptive and Contrastive Analysis on Languages of the Northeast Eurasia", Niigata University, 2016 年

EBATA Fuyuki ‘Studies on Altaic linguistics in Japan’, the third international conference on Altaistics, Yakutsk, Russia, 2016 年

江畑冬生 「トゥバ語との対照から明らかになるサハ語の規則性と義務性」、日本言語学会第 153 大会、福岡大学、2016 年

⑲ 呉人徳司 「作为一个跨境语言的变异现象--以中国和蒙古国的蒙古语个案为例--」、第二届跨境语言研究论坛、玉溪学院、中国・玉溪市、2015 年

⑳ 呉人徳司 「東郷語的语言接触与使用情况」、The 13th Urban Language Seminar、西安師範大学、中国・西安市、2015 年

〔図書〕(計 7 件)

呉人徳司 (編) *ЛЫГЪОРАВЭТЛЪЭН ЛЫМҢЫЛТЭ БЕЛИКОВЫН* (*Chukchi folk tales in the recording of Belikov*), 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 309 ページ, 2019 年

呉人徳司 (編) *Лымҥылтэ Токэ* (*Folk tales of Toke*), 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 177 ページ, 2019 年

呉人徳司 (編) *Chukchi Ainal Folk Tales with Grammatical Analysis*, ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies, Scholarly Book, Editing and Writing, 90 ページ. 2018 年

江畑冬生・呉人徳司 (編) *Linguistic Typology of the North*, Vol.4, ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies, 2017 年、202 ページ。

呉人徳司 (編) *Linguistic Typology of the North*, Vol.4, ILCAA, Tokyo University of Foreign Studies, Scholarly Book, Editing and Writing, 100 ページ、2016 年

風間伸次郎 (編) 『エウエン語ピストラヤ方言テキスト 1 (ツングース言語文化論集 62)』、東京外国語大学、100 ページ、2016 年

Dennis Zeyrek & EBATA Fuyuki *Ankara Papers in Thrkish and Turkic Linguistics (Proceedings of the 16th International Conference on Turkish Linguistics)*, Harrassowitz, 676 ページ、2015 年

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：

発明者：

権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<https://hokuto-asia.aa-ken.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名： 風間伸次郎

ローマ字氏名： KAZAMA Shinjiro

所属研究機関名： 東京外国語大学

部局名： 総合国際学研究院

職名： 教授

研究者番号（8桁）： 50243374

研究分担者氏名： 江畑冬生

ローマ字氏名： EBATA Fuyuki

所属研究機関名： 新潟大学

部局名： 人文学部

職名： 准教授

研究者番号（8桁）： 80709874

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。